

十年前の福井豪雨

美山中学校

三年

有塚 ありつか

和佳奈 わかかな

私が住んでいる美山町は、山は青々と茂り緑がとても鮮やかです。しかし、ちょうど十年前、誰もが信じられない光景が広がりました。嶺北地方を中心に被害をもたらした集中豪雨です。

平成十六年七月十八日の早朝のことでした。その日の雨は今まで経験したことのない土砂降りです。堤防が決壊するなどともひどかった。

美山町では、十八日の午前五時から、その一時間で八十七ミリもの雨量を観測しました。それから四時間ばかりの間、それまで経験したことのない猛烈な雨に見舞われました。降り始めからの総雨量は二百八十五ミリに達し、平年七月の月間雨量を上回る記録的な豪雨が流れました。この激しい雨で、越美北線の橋梁

福井豪雨の人的被害は死者四人、行方不明者一人、負傷者十九人でした。この数は、他

の豪雨に比べてまだ少ない方だと私は思います。なぜ、福井豪雨での人的被害をこんなに少なくおさえることができたのでしょうか。それは、危険な箇所や避難場所を日頃から確認していたからだと思います。また、近所どうし仲が良いいので、お互いに助け合っていたのだとも思います。

また、美山町では土砂災害がとも少なかつたです。周りのほとんどが山なのになぜ、土砂災害は少なかつたのでしょうか。祖父に聞いてみたところ、美山には、たくさんの竹があるからだと言っていました。竹の根は、こゝろでも丈夫で、根があちこちにはりめぐらされていきます。

今年の八月中旬に広島県で土砂災害が起きました。私はテレビを見ていて美山みたいない場所だと思いました。しかし、土砂くずれがあつた山を見ると、美山みたいに竹のようない強い根、この木がないと思いましたが、私は、美山は奇跡的に助かつたのだと思いました。

もし、竹みたいな強い根。この木がなかつたら、私たちは死んでいったのかもしれない。しかし、広島県では、土砂くずれで亡くなっている人がとても多いです。避難指示はきちんとしていたのではありませんか。住人のみなさんは、土砂災害特別警戒区域、いわゆる「レッドゾーン」を知っていたのでしょうか。こういった対策ができていれば、こんなに死者はでなかっただけです。こんな土砂災害で命を落とすなんてとてももったいないと思います。

改めて、日頃から防災マップなどから危険な場所を常にチェックするべきだと思います。悪夢のような時が過ぎ、雨が少しやんでから、父と祖父は足羽川の様子を見にいって、うです。そのときの川の様子は、日頃見ていたキラキラと水面が光る、美しいせせらぎの川と全く違いました。雨がやんでいても、茶色に濁り、ゴウゴウとすすまじい勢いで流れていました。道路は川のように水があふれていました。土のうを積んでいる地元消防団員

の姿もありました。また、他の県からも支援  
に来て下さいました。その人たちのおかげで  
美山町はみるみるうちに元通りになっていき  
ました。心から感謝しています。

十年た、た美山町では現在、当時、小さか  
った子どもやまだ生まれたいない子どもたち  
に当時のことについての授業がありました。

十年前の映像や話を詳しく教えてもらいまし  
た。その時は、夏季大会だ、たそうです。集  
合の時間にな、ても全員集まらず、電話をか

けてもつながらないなど、とても大変だ、た  
そうです。あれから十年間、大きな災害もな  
かったことが幸せであ、たと思うと同時に、  
土砂災害が起こらないよう、集中豪雨が起こ  
らないよう願うばかりです。

しかし、現在の地球の気象状況では、いつ  
集中豪雨が発生するが予測はできません。私  
は災害が起こ、たときに、どのような行動を  
とればいいのか考えました。そこで考えたこ  
とは、土砂災害特別警戒区域を確認し、日頃

から危険な箇所や避難場所を確認することです。そして、近所の方々や地域の方々や日頃からいつも支え合って生きていくことです。日頃から付き合いがなければ、いざという時に、本当に助け合って生きていくことができない、本当だと思うからです。

この十年前の、たった数日の出来事で、かなりショックを受け人もいます。また、これからの生きかたが変わっていく人もいます。自然は、時には人の命を奪ってしまふ。

また、人の生きかたも変えてしまふほどとても怖く感じます。私にとって大好きな自然に對して畏敬の念をもち、地域の人々と支え合って生きていくこと。「故郷と共に生きる」ことの大切さを私は今、しみじみと感じています。